



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要				
建物名称	静岡平和ビル	BEE	1.2	BEEランク B+ ★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.8	/5		ふつつ
"災害に強いすおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5		ふつつ
"すおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.0	/5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	<b>3.8</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</li> <li>⑦各種断熱材を用いて、省エネ法に於けるBPImを0.79とした。</li> <li>⑧主要室に、全熱交換機(ナイトバージ機能付)を採用。</li> <li>⑨省エネ法に於けるBEIを0.68とした(LED照明の採用。高効率空調機の導入)</li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</li> <li>⑪節水コマ、節水型便器の採用。</li> <li>⑫内外装材を乾式とし、分別解体が容易にできる様に配慮。</li> <li>⑬有害物質を含まないシーリング材、接着剤の採用。</li> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</li> </ul>	Q-1 2 2.1 2.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	② 屋光利用設備 ③ 屋光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	<b>"災害に強いすおか"の形成(Disaster)</b>		得点	<b>3.1</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</li> <li>⑰空調エリア区分の配慮。耐震性能に優れた配管支持方法とした。</li> </ul>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
	<b>"すおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点	<b>2.0</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</li> <li>⑱バリアフリー対応のエレベーター、WCを採用。動線計画に配慮した。</li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</li> </ul>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
	<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	<b>2.7</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/②まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</li> <li>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</li> </ul>	Q-3 1 ⑤ 2 ② 3 3.2 ⑥ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑤ 生物環境の保全と創出 ② まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版(使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	静岡平和ビル	階数	地上4F
建設地	静岡県静岡市葵区平和二丁目469番	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火指定無し	平均居住人員	200 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2022年4月8日
敷地面積	2,930 m <sup>2</sup>	作成者	菅澤庸史
建築面積	1,702 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,908 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・ 省エネ基準を満足した設計とする事他、災害時にも対応できる設備対応を行った(発電機接続による電源供給他) ・ 「これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。」		<b>その他</b>
<b>Q1 室内環境</b> ・ F☆☆☆☆かつ、VOCの少ない建材を全面的に使用した。	<b>Q2 サービス性能</b> ・ 階高に余裕をもたせ、ゆとりある天井高とした。 ・ 設備は、耐用年数の長い配管材を採用。 ・ 災害時に発電機を接続できる設計とした。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・ 建築物の外皮性能を向上、熱交換器の採用(ナイトパーズ機能)等により、空調負荷を低減させる配慮を行った。
<b>LR1 エネルギー</b> ・ BPI <sub>m</sub> =0.79 Bel <sub>m</sub> =0.68	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・ 内装を乾式工法で分別に配慮。 ・ O Aフロアを採用。 ・ 自動水栓や節水型便器などを採用。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・ 燃焼機器の使用なし。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される